

令和元年度 議会運営委員会 視察研修報告書

1 視察日

令和元年 8 月 5 日（月）

令和元年 8 月 6 日（火）

2 参加委員

夏八木盛男（委員長）、丸山国一（副委員長）、中村勝彦、日向 正、岡部紀久雄、高畑一幸、飯島武志、飯島孝也、廣瀬宗勝（議長）

3 視察先及びテーマ

- ・ 名 称：新潟県上越市議会
- ・ 住 所：新潟県上越市木田 1-1-3
- ・ テーマ：「円滑な議会運営と開かれた議会」「議会基本条例」

- ・ 名 称：長野県飯綱町議会
- ・ 住 所：長野県上水内郡飯綱町大字牟礼 2795-1
- ・ テーマ：「町民とともに歩む議会」「情報公開と議会改革」

4 視察研修報告

上越市の現在の人口は約 19 万人。上越市議会が積極的に取り組んでいるのが「市民との情報共有と情報公開」を積極的に展開すると同時に、政策提言をサイクル化するため、議会に対する多くの市民の声を聴き、市の政策や施策に反映させている。

議会基本条例は、平成 23 年 11 月に議員発議で制定。特に注目すべきところは、第 30 条で見直しを規定しているところで、議会活動及び議員政治倫理について、時代に即応した柔軟性を持った内容が明記され、制定後、既に 2 度の検証があり必要に応じ条例の改正も行われ、常に厳格さを保つと同時に円滑性も求めている。

2 日目は、長野県飯綱町を訪問。同町は人口約 1 万 1 千人、リンゴ栽培と稲作が盛んで、同時にスキー場やゴルフ場を主体とするレジャー産業が雇用の創出と併せて経済の活性化を促している。しかし、遡ると平成 3 年に始まったバブルの崩壊を機に、町の税収は年々減少し続け財政破綻直前まで追い込まれ、危機的な状況にまでなったという。その原因は、役場だけでなく議会の責任もあると、議会が奮起一転、「起死回生」をキーワードに、行政とともに市民を巻き込んだ財政の健全化策と開かれた議会改革に取り組み、現在では「議会改革のカリスマ」とも評されている。

「チーム議会」の政策提言活動を重視し、町民の声を広く反映させていくため平成 18 年に「議会見える化」のための議会だよりモニター制度を新設。平成 22 年に制定した政策サ

ポーター制度は、議会改革を推進するための大きな礎ともなり、取り組みの相乗効果として、政策サポーターと議会だよりモニターの経験者5名が29年の議員選に当選し、機動力を生かし中学生の模擬議会・休日・夜間議会の開催など開かれた議会、さらなる「議会見える化」への大きな原動力となっている。

財政破綻寸前までに追い込まれたとき、追認機関としての議会であった事実を大いに反省し、議会制度の基本である二元代表制の遵守と責任の重大さを自覚し、町民とともに飯綱町の再生を実現化したゆるぎない事実を知り、たいへん刺激を受けると同時に、今後の議会活動へ大いに参考となった。

●8月5日 上越市議会会議室にて



●8月6日 飯綱町議会議場にて

